

7) エストリオール・アルファロール併用療法による骨粗鬆症の治療

谷 啓光 (下越病院産婦人科)
倉林 工 (新潟大学産科婦人科)

目的：1. DEXA 法を使用せずに、DIP 法で骨量減少の診断管理が可能か否か検討する。2. 骨量減少に対するエストリオール・アルファロール・Ca 併用療法の有効性を検討する。方法：1. H4 年 8 月より 5 年 12 月までの間、腰痛等症状を持つ婦人に DIP を施行し、年代別推移をみた。Σ GS/D ≤ 2.26 の症例には胸腰椎 Xp を撮影した。2. 上記療法による Σ GS/D の推移をみた。一部他の療法もした。結果：計 430 例に DIP をした。Σ GS/D は 56~60 才以後有意に低下した。Σ GS/D ≤ 2.26 の頻度は 46~50 才では 12.5% なのに、56~60 才、61~65 才、66~70 才、71~75 才では、41.0%、54.4%、83.1%、82.9% と増加した。DIP 法の感度は 0.93、特異度は 0.75、精度は 0.92、有効度は 1.68 であった。

上記治療により Σ GS/D は 8%/年と有意に増加した。他の療法でも Σ GS/D の増加ないし増加傾向を認めた。結語：1. Σ GS/D は、従来の DEXA 法による報告と同様の動態を示すので、DIP でも骨量減少の管理が可能であると示唆された。2. 上記療法は骨量減少に有効であった。

8) 糖尿病患者の HDL-C

一とくに高 HDL-C 血症と LCAT, LPL, HTGL, CETP について一

山田 幸男・高沢 哲也 (信楽園病院内科)
岩原由美子 (同 栄養科)
斉藤 康 (山形大学医学部臨床検査医学講座)

糖尿病患者の血中 HDL-C は低値の人が多いが、高 HDL-C 血症 (100 mg/dl 以上) の人も少なくない。当院の糖尿病外来に通院中の高 HDL-C 血症患者は 23 名おり、全糖尿病患者の 1.5% に相当する。また、他の疾患患者に比べ高 HDL-C 血症の患者の比率が明らかに高いことから、糖尿病という疾患に特異な病態と思われる。

そこで高 HDL-C 血症患者を含む 87 名の糖尿病患者で HDL 代謝と関連の深い 4 つの酵素、LCAT (lecithin-cholesterol acyltransferase, レシチンコレステロール・アシル転移酵素), LPL (lipoprotein lipase, リポ蛋白リパーゼ), HTGL (hepatic triglyceride lipase, 肝性

リパーゼ), および CETP (cholesterol ester transfer protein, コレステロール・エステル転送蛋白) と HDL-C との関係について検討した。その結果、HDL-C は LCAT と HTGL とは有意の負の相関を、また LPL とは正の有意の相関を示した。さらに CETP 値は高 HDL-C 血症の 6 名の患者のうち 5 名は極めて低値であった。中でも HDL の逆転送作用にかかわりの大きい HTGL と CETP 値が高 HDL-C 血症患者では低値であることから、HDL-C が高いからといって額面通りには逆転送作用はしていないものと考えられた。

9) 糖尿病患者における低 HDL 血症に対するベザフィブラートの効果

中村 宏志・中村 典雄 (中村医院)
中村 隆志
片桐 尚・吉田比美子 (新潟大学第一内科)
伊藤 正毅

【目的】糖尿病に伴う低 HDL 血症に対しベザフィブラートが改善効果をもたらすかどうかについて検討した。【方法】HDL < 40 mg/dl の NIDDM 患者 14 名 (男性 9 名, 女性 5 名) にベザフィブラート 200 mg/日を投与し、服用前と 1 ヶ月後, 3 ヶ月後, 6 ヶ月後の T.C., T.G., HDL, HbA_{1c}, アポ蛋白を測定した。【結果】T.C., T.G. は投与後有意に減少, HDL は有意に増加した。アポ蛋白は A-I, A-II が有意に増加, B が有意に減少, C-II, C-III, E は減少傾向を認めた。HDL の増加量は T.G. の減少量と相関 (γ = 0.6731) を認めた。HbA_{1c} は 7.4 → 7.0% と減少を認め、特に男性で 7.2 → 6.5% と著明であった。【結論】① 糖尿病に伴う低 HDL 血症に対し、ベザフィブラートが改善効果をもたらすことが明らかになった。② 上記効果は、T.G. の減少幅が大きい症例ほど顕著であった。③ ベザフィブラートの投与により、HbA_{1c} の改善傾向が認められ、特に男性で著明であった。

10) 中高年婦人の高脂血症とエストロゲンの影響

谷 啓光 (下越病院産婦人科)
山川 良一 (同 内科)
倉林 工 (新潟大学産科婦人科)

【目的】1. 中高年婦人の高脂血症に関する疫学調査をする。2. エストロゲン (E) (特に E₃) の脂質に対す